

4	CAS 番号：61869-08-7	物質名：パロキセチン
---	-------------------	------------

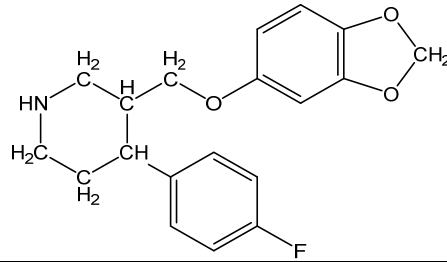
化審法官報公示整理番号：

化管法政令番号：

分子式：C₁₉H₂₀FNO₃

構造式：

分子量：329.37



1. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は 7.46 mg/L (25°C) (計算値)、17.14 mg/L (25°C) (塩酸塩) (計算値) で、分配係数 (1-オクタノール/水) (log Kow) は 4.74 (計算値)、2.89 (塩酸塩) (計算値)、蒸気圧は 6.39×10⁻⁶ Pa (計算値)、1.56×10⁻¹⁰ Pa (塩酸塩) (計算値) である。生物分解性 (好氣的分解) は分解しないとの報告がある (塩酸塩 1/2 水和物)。また、加水分解性については、安定 (塩酸塩 1/2 水和物) (25°C、半減期：1 年以上) である。

本物質の塩酸塩水和物の主な用途は、選択的セロトニン再取り込み阻害剤である。また、パロキセチン塩酸塩水和物から求めた本物質の 2019 年における生産数量は 1.4 t、輸入品数量は 0.29 t であった。

2. 曝露評価

本物質は化学物質排出把握管理促進法 (化管法) 第一種指定化学物質ではないため、排出量及び移動量は得られなかった。Mackay-Type Level III Fugacity Model により媒体別分配割合の予測を行った結果、大気、水域、土壤に等量排出された場合、土壤に分配される割合が多かった。

水生生物に対する曝露を示す予測環境中濃度 (PEC) は、公共用水域の淡水域では 0.0029 µg/L 程度、同海水域では概ね 0.00065 µg/L 未満となった。

3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類等では緑藻類 *Raphidocelis subcapitata* の生長阻害における 48 時間 EC₅₀ 130 µg/L、甲殻類等ではニセネコゼミジンコ *Ceriodaphnia dubia* の 48 時間 LC₅₀ 580 µg/L、その他の生物ではアフリカツメガエル (胚) *Xenopus laevis* の 96 時間 LC₅₀ 5,120 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 1,000 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 0.13 µg/L が得られた。

慢性毒性値は、甲殻類等ではニセネコゼミジンコ *C. dubia* の繁殖阻害における 7~8 日間 NOEC 220 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく PNEC 2.2 µg/L が得られた。

本物質の PNEC は、藻類等の急性毒性値から得られた 0.13 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域で 0.02、海水域では 0.005 未満であった。したがって、生態リスクの判定としては、現時点で作業の必要はないと考えられた。総合的な判定としても同様とした。

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	曝露評価		PEC/PNEC 比	総合的な判定
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)		
藻類等 緑藻類	急性	EC ₅₀ 生長阻害	1,000	0.13	淡水	0.0029	0.02	○
					海水	<0.00065		

4. 結論

	結論	判定
生態リスク	現時点では更なる作業の必要性は低い	○

[リスクの判定] ○：現時点では更なる作業の必要性は低い、▲：更なる関連情報の収集に努める必要がある、
■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない。